

えています。

合志 現在、基幹システムをスクラッチで開発しているのですが、それを中心としたデータ連携の広がりも視野に入れています。現在、経理は「楽々精算」を使っていて、社員が入力して自動振り込みが行われているのですが、基幹システムに反映されている仕訳データを奉行シリーズに自動で渡していくようなこともやっていきたいですね。

緒方 連携という意味ではカオナビと総務人事奉行クラウドとの連携もさらに強化していきます。今は人事評価をカオナビ上で実施していて、最終データもカオナビに置いてあるのですが、それを総務人事奉行クラウドに引き渡すための連携にChalazaを活用したいと思っています。

労務管理についても今は奉行シリーズに移管していて、人事周りはすべて奉行シリーズにシフトしていくことになると思います。

ただ、冒頭にも述べたように、我々は人を輝かせるための仕事をしているので、人事としては、もっと社員同士の横のつながりを深めると同時に、人事評価も含めて人的リソースの最適化を進めて、社員一人ひとりが生き生きと働ける環境を整備していきたいと思っています。

そのためにはカオナビと奉行シリーズのデータ連携はさらに広がっていくはずです。これまで以上にChalazaを活用していきたいと考えています。

——最後にChalazaを開発・販売している三谷産業に対する印象などお聞かせください。

合志 今はChalazaによるAPI連携という面でのお付き合いですが、何か問題が発生した場合には、Chalaza部門で

はない福岡支店の担当者がしっかりフォローしてくれました。こうしたサポートが充実していることは高く評価しています。

緒方 とにかくChalazaの担当者の方が一所懸命に取り組んでくれたことが印象に残っています。あそこまで親身にしてもらうと、多少、開発が遅れても怒れませんよ(笑)。それだけお客様のことを大切に考えている会社なんだと感じました。

Chalazaは当社の人事にとっては重要なツールです。社員同士の横のつながりを生み、組織のパフォーマンス向上を支えるツールとして、今後も期待しています。

※記事の内容は2023年11月現在のものです。

瀏上ファインズ

明治28年創業で、福岡市博多区に本社を置き、全国約40ヶ所に拠点を展開。海外にも拠点を持つ。ブライダル向けのドレスショップの運営、商品企画、挙式のプロデュース、ブライダルメディアの運営などを手がける。「すべての人に彩りを」という企業理念を掲げ、提供するドレスやサービスで人生に彩りを提供し、結婚式という文化を通して持続可能な社会の実現に貢献することを目指している。

DATA

名 称	株式会社瀏上ファインズ
本社所在地	〒812-0039 福岡県福岡市博多区冷泉町6-16
設 立	明治28年創業、昭和53年設立
資 本 金	3,000万円
従業員数	430名(2023年2月現在)
事業内容	ドレスショップの運営、ドレス・タキシード・和装・列席衣装の商品企画、神社挙式・写真婚のプロデュース、婚礼紹介、ブライダルメディアDressesの運営、ジュエリー販売

FaaSインテグレーター

Chalaza

FaaS インテグレーター『Chalaza』とは

世の中にあるさまざまなクラウドサービス同士をつなぎ、業務の効率化やシステムコスト削減を実現するデータ連携ツールです。

Chalaza自体がクラウドサービスであるため、従来のようなサーバーやデータベースの用意は不要。さらにプログラミングはもちろん、ドラッグ&ドロップによる開発も必要ナシ。必要な連携モデルを申し込んで、簡単な設定をするだけで誰でもいつでも利用開始できます。

1連携モデル 2万円~/月



お問い合わせはこちら



MITANI

三谷産業株式会社 Chalaza推進室
<https://www.faas-chalaza.net/>

お電話
受付時間

平日 9:00-17:00
☎03-3514-6010

WEBサイト



お問い合わせ



FaaSインテグレーター

Chalaza

導入事例

株式会社 瀏上ファインズさま

福岡に本社があり、全国にドレスショップを展開する瀏上ファインズでは、

拠点を超えて社員同士の横のつながりを強化するために、

顔が見えるタレントマネジメントシステム「カオナビ」を導入し、

OBC奉行シリーズの「総務人事奉行クラウド」とデータを連携させている。

それを実現するために活用されているのが、

三谷産業が提供するデータ連携ツール「^{カラザ}Chalaza」である。

お客様の声

「**スケジューラーで設定するだけでデータが自動で反映されるので、データ連携のストレスがまったくなくなりました。**」

株式会社瀏上ファインズ

合志貴幸さん

Business Reform ゼネラルマネージャー、ITビジネスソリューション マネージャー

緒方絵美さん

ヒューマンリソース ゼネラルマネージャー



導入前の課題・背景

- 以前の人事システムとカオナビとの連携には自社で開発した連携ツールが使われていた。
- 前任のシステム担当者が作った連携ツールは不完全でエラーが発生することがあった。
- 人事システムをリプレイスするタイミングで「Chalaza」によるデータ連携を図った。

導入後の効果

- スケジューラーで連携したい定期日時を設定しておけばすべて自動でデータ連携が実施され、ストレスフリーに。
- カオナビで設定したカスタム項目の連携についてもChalazaでは標準機能として装備されている。
- カオナビのさらなる活用に向けたデータ連携基盤としての利用も見えてきた。

顔の見える人事データで 全国の社員同士をつなぐ

——Chalazaの導入を検討するようになった経緯を教えてください。

緒方 当社は130年の歴史を持つウェディングドレスのレンタル事業を中心にビジネスを展開しているブライダル企業です。福岡の呉服店から始まり、今では全国約40拠点でドレスショップを運営し、海外にも進出しています。

ブライダル業界全体は縮小傾向にありますが、コロナ禍が収まって当社の業績は急速に伸びています。昨年は70名を採用し、全従業員は439名となり、うち正社員が231名という構成になっています。オウンドメディアを立ち上げるなど、事業分野も拡大していて、今後も新卒、キャリアともに採用を強化していく予定です。

ただ、当社の従業員の働き方には特徴があります。男女ともに地域限定で採用した従業員が多く、お互いのことをよく知りません。「すべての人生に彩りを」という企業理念を掲げているからには、従業員同士が横のつながりを持って、活性化していることも大切です。

そこで5、6年前に、お互いの顔が見えてどんな人なのかわかるタレントマネジメントシステム「カオナビ」を導入しました。人事が活用するというより、社員同士が顔や情報を共有し、相互理解を図ることが狙いでした。

合志 当時は人事システムから社員向けに公開できる人事データを取り出して、一旦Googleのスプレッドシートに落として、そこからAPI連携でカオナビにデータを渡してい

ました。この連携の仕組みは私の前任のシステム担当者が手作りで開発したツールでした。

また、以前は基幹システム全体をAWS上のIaaSで稼働させていたのですが、障害発生時に対応が必要になるなどメンテナンス性に問題があり、クラウドサービスへの移行を進めてきました。2年前に人事システムをOBCの奉行シリーズにリプレースすることになり、それに合わせてChalazaによ

るデータ連携を検討することになりました。

属人的な既存ツールからの 脱却を、Chalazaで図る

——以前使っていた連携ツールには何か問題があったのでしょうか。

緒方 私をはじめ当社のメンバーはITリテラシーがそれほど高くありません。人事システムからどうスプレッドシートに取り出しているか、それをどうカオナビに移行しているのかも、人事としてきちんと理解できていませんでした。

そうした中で前任のシステム担当者が退職してしまったため、エラーが発生すると手に負えないことがありました。そのような連携ツールでは万が一にも、社員に公開してはいけないデータが閲覧できてしまわないかという不安が募り、日々、大きなストレスを抱えてしまっていたのです。

合志 個人が開発したものなので仕方ありませんが、連携ツールとしては複雑で、完成度も高くなく、パッケージに置き換えられるのであれば、その方が良いと考えていました。そんな時にOBCからChalazaを紹介されたのです。

——他のソリューションは検討したのでしょうか。

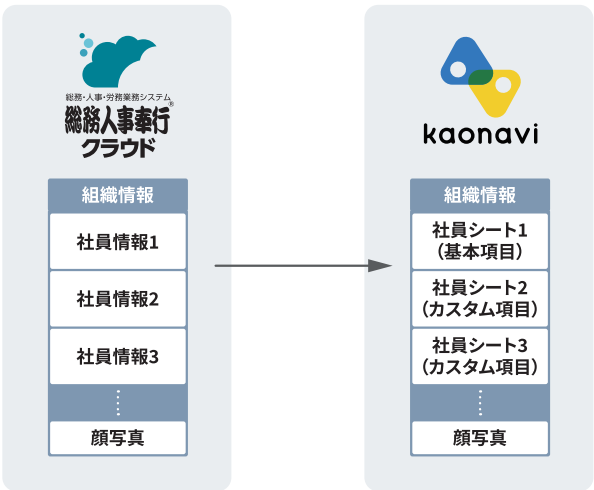
緒方 連携できるならそれでOKだと考えていたので、Chalaza以外は特に検討しませんでした。コストもリーズナブルでしだし、デモ画面を見せてもらった時にも使いやすそうだと感じました。

合志 製品のコンセプトがしっかりしていて、スムーズにできそうだという印象を受けました。手軽に導入できそうで、コストも手頃でした。しかも連携モデルを今後も増やしていく予定だと聞いて、拡張性もあると思いました。

ただ、当時はカオナビからデータを取得するアダプターや奉行シリーズからデータを取得するアダプターについてはロジックやフォーマット変換の部分などが開発中だったために、結果的には当初予定していたより導入時期が数ヶ月ずれ込んでしまいました。奉行シリーズへの切り替えは2022年の3月に完了していましたが、カオナビとの連携がすべて完了したのは同年9月末でした。

緒方 当初は20項目くらいの人事データの連携を予定していましたが、一部にエラーが出たためにスモールスタートに切り替え、4月末に10項目を連携することから運用を始めて、残りを開発してもらったので、全部連携させるまでに半年かかったことになります。

合志 具体的には地域や年金といった当社独自のカスタム項目でエラーが出ていました。Chalazaの担当者と直接やりとりしてそういったカスタム項目に対応する部分を一緒に作って行った感じでしたが、要望を聞いてもらったことでそれらの機能が標準機能になったので、結果としては良かったと思っています。ファーストユーザならではの特典ですね(笑)



データを反映させる作業が 設定だけで自動化できた

——実際にはどんな項目を連携させたのでしょうか。

緒方 名前、生年月日などの基本的な項目と地域限定採用なのかグローバル採用なのかという社員の種別、新卒採用か中途採用かという入社の違いなど、現場が必要としている項目です。社員同士の相互理解を深めるための情報と個人にしか公開しない情報を使い分けていますので、退職金に関する情報のような本人にしか見ることができない情報も含まれています。

——Chalazaの導入はスムーズに行えましたか。

緒方 導入のためには連携させる相互のデータ項目をマッピングする必要があります。今ではそのための簡易ツールが提供されているようですが、当時はありませんでした。ただ、Chalazaの担当者の方と導入作業を進めていて、マンツーマンで画面を見ながら設定のやり方を教えてもらったので、気がついたら作業が終わっていた感じです。

——今はどのように運用しているのでしょうか。

緒方 タイムスケジューラで項目ごとに更新のタイミングを設定し、あとは自動で運用しています。

人事情報なので、連携するタイミングを間違えられないデータも多くあります。昇格や異動などの情報が本人にフィードバックされる以前にカオナビに表示されるようなことは避けなければなりません。

ただ、導入後はタイムスケジューラで予約設定しておけば、すべて自動で行われるようになったので、私たちは何もする必要が

ありません。Chalazaが総務人事奉行クラウドから該当項目のデータを取得し、データ変換してカオナビに反映してくれます。

——導入によってどんな効果があったのでしょうか。

緒方 まず何もしなくて良いので、ストレスがまったくなくなりました。以前は手動で連携していたために、データ更新を忘れてしまうこともありました。しかも2週間更新が遅れると入力のためのキーを再設定する必要があり、その度に社内のシステム担当者に連絡していました。

それがタイムスケジューラで動かしている限り、何もしなくて良くなったのです。以前とはまったく違います。総務人事奉行クラウド側に未記入項目があったりするとエラーが出て対応を求められますが、それ以外はすべて自動です。

合志 しかも以前の連携ツールで運用していた時には、裏側でデータ変換が何段階も自動実行されていて、未記入の項目があったりすると、全データが消えてしまうこともありました。カオナビ側で発生したエラーに対する設定が完全ではなかったためです。今はそうしたリスクもなくなりました。

さらなるデータ連携で カオナビの活用を強化

——今後の展開について教えてください。

緒方 人事としてはカオナビをもっと有効活用していく予定で、そのためにChalazaを使ってデータ連携する項目が増えていくと思います。今は人事制度が異なるために人事を統合できないグループ会社もあるのですが、それもChalazaで連携させてカオナビに取り込んでいきたいと考



緒方絵美さん
瀏上ファインズ
ヒューマンリソース
ゼネラルマネージャー



合志貴幸さん
瀏上ファインズ Business Reform
ゼネラルマネージャー、
ITビジネスソリューション マネージャー